

指導助言者として、秋田県教育庁特別支援教育課より中村素子先生をお迎えして行いました。

提示授業 中学部2年・高等部1・2年・3年 自立活動「朝の活動・朝の会」

これまでの研究成果でもある、授業づくりにおいて大切にしている4つの観点（言葉掛け、姿勢づくり、教材・教具、授業展開）に沿った支援の整理に重点をおいて指導を進めました。生徒の障害の状態、発達段階、生活年齢、学習場所の制限等を考えながら、自分の気持ちを表し伝える姿を目指し、感じた心の表出を大切に授業づくりを行いました。

「朝の活動」では、教師と一対一でじっくりと関わり、気持ちや体調の安定を図りながら個々の課題に取り組む活動を設定しました。「朝の会」では、一人一人が異なる場所での活動でしたが、離れている友達や教師の存在に気付いたり、通信機器（トランシーバー等）を通じた働きかけに応えたりできるように、通信機器の使い方を工夫して集団の活動の楽しさを感じられるような朝の会を心がけて授業を行いました。



腕を上げて意思表示をして、選曲しています。



教師の働きかけに応じて、鈴を鳴らそうとしています。



聞こえてくる声や楽器の音をよく聞いています。

授業研究会 協議題「生徒の表出を引き出すための授業展開・言葉掛けについて」

2つのグループに分かれてワークショップ形式の協議を行いました。協議では両方のグループで「気持ちを引き出す音」や「生徒同士をつなぐもの」について話題になりました。それに関連して「情報機器のより有効な活用」「音を生かした活動の展開」「教師がつなぐ授業展開」等についても活発な意見交換が行われました。

【協議会より（一部抜粋）】

- ・繰り返し同じ流れで取り組むことで見通しを十分にもち、自発的な動きが引き出されていた。
- ・トランシーバーを上手に活用して、相手とスムーズにやりとりができていた。相手の声や音をしっかり聞き、生徒が自ら気持ちを表す場面が多く見られた。
- ・音情報だけで活動の流れを読み取ることは難しいため、始まるの合図や個人の音などを設定し、友達を意識できるようにしたい。
- ・児童生徒の好きな音や声を見極め、その音を取り入れることで、もっと生徒の気持ちを表す場面が多くなり、活動も展開してくるのではないかと。
- ・授業の中では、児童生徒が気持ちを表す場面が十分に引き出されていたが、グループの実態から生徒同士の関わりを成立させるためには、教師の仲立ちが大切である。教師が言葉をつないだりローテーションしたりなど、教師が動いてつなぐ授業展開も必要ではないかと。



指導助言 秋田県教育庁特別支援教育課 指導主事 中村素子先生

- ・トランシーバーは、相手の声や音をストレートに聞け、思っていた以上に良い教材であった。相手の声を聞いて覚醒したり腕や手を動かしたりなど生徒の表出が多く見られ、生徒の期待感が伝わってきた。
- ・児童生徒の目指している表出とは何かを再確認し、表出を引き出すための情報は生徒にとって分かりやすいものなのか整理をしながら共通理解を図り、不足しているところは今後検討して追加してほしい。
- ・朝の会だけでなく、個別の学習でも児童生徒の表出を大事にし、より社会に近い場や集団の中で、発揮できるように授業に取り組んでほしい。

